

令和7年度群馬県ヤングケアラー実態調査

調査結果報告書を公表します

群馬県では、令和4年度に小中高校生等を対象としたヤングケアラー実態調査を実施していますが、令和6年度に子ども・若者育成支援推進法が改正され、都道府県に広域的な調査を実施した上で、主に18歳以上のヤングケアラーである若者への支援体制の構築が求められました。これを受けて、支援対象となるヤングケアラーの生活状況や課題等を把握し、今後の支援のあり方を検討するため、満18歳以上満39歳以下の方を対象とした調査を今回初めて実施しました。

記

1. 調査対象・調査方法・回答率

- (1) 調査地域 群馬県内全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳～満39歳の個人
- (3) 標本数 3,300人
- (4) 抽出方法 選挙人名簿を用いた層化二段無作為抽出法により、11地域から300人ずつ抽出
- (5) 調査方法 郵送配付、郵送・WEB アンケートシステムによる無記名回収
- (6) 調査期間 令和7年12月5日～令和8年1月16日
- (7) 有効回収数 1,249件
- (8) 有効回収率 37.8%

2. 報告書公表URL

<https://www.pref.gunma.jp/page/751033.html>

3. 主な調査結果概要

(1) 「ヤングケアラー」という言葉の認知度（報告書25ページ）

「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、よく知らない」を合わせた「ヤングケアラーという言葉を知ったことがある人」が82.5%となっている。

(全体 n=1,249)

聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはある が、よく知らない	聞いたことは ない
59.1%	23.4%	17.5%

(2) お世話をしている家族が「いる」割合（報告書39ページ）

お世話をしている人が「いる」割合は4.8%となっている。各年齢階層別では、次のとおりとなっている。

(全体 n=1,249)

18～22歳	23～25歳	26～29歳	30～34歳	35～39歳
3.1%	5.6%	5.0%	4.2%	6.4%

(3) お世話をしている家族が「いる」、または「いたことがある」割合（報告書39ページ）

お世話をしている人が「いる」と「いたことがある」を合わせた「お世話の経験がある人」は11.0%、お世話をしている人が「いない」人は88.8%となっている。

(全体 n=1,249)

お世話をしている人がいる	過去にお世話をしていた人がいたことがある	お世話をしている（していた）人がいない
4.8%	6.2%	88.8%

(4) お世話をしている人（報告書41ページ）

お世話をしている、またはしていた人については、「祖父母」が50.1%で最も多く、次いで「父母」が44.8%となっている。

※重複回答を除く。

(全体 n=137)

祖父母	50.1%
父母	44.8%
弟・妹	12.7%
親戚 (おじ・おば・いとこ・おい・めい等)	7.5%
兄・姉	2.3%
無回答	1.6%
その他	3.0%

(5) お世話の内容（報告書50ページ）

お世話の内容は、「家事」が56.3%で最も多く、次いで「外出の付き添い」が51.3%、「病院の付添い」が48.0%となっている。

(全体 n=137)

家事	56.3%
外出の付き添い	51.3%
病院の付添い	48.0%
見守り	46.9%
感情面のサポート	40.5%

身体的な介護	29.8%
薬の管理	19.0%
金銭管理	14.2%
きょうだいの世話など	7.8%
家計を支える	7.5%
医療的ケア	4.7%
通訳等	2.1%
その他	3.1%
無回答	1.6%

(6) お世話による学業・就労・生活への影響（報告書71ページ）

お世話による影響は、「疲れがたまっている」が40.2%で最も多く、次いで「自分の時間がとれない」が37.2%となっている。

(全体 n=137) ※上位5位まで

疲れがたまっている	40.2%
自分の時間がとれない	37.2%
自分の思うように働けていない	23.1%
睡眠時間が十分にとれない	18.5%
家族のお世話のために有休を消化している	15.8%

(7) お世話の悩みを相談したことがある人の割合（報告書88ページ）

家族のことやお世話の悩みを「相談したことがある人」は39.5%で、「相談したことがない人」は58.2%となっている。

(全体 n=137)

相談したことがある	相談したことがない
39.5%	58.2%